福島民報朝刊　2021年11月14日掲載

企画・制作／福島民報社 広告局

話す、聞く、食べるリハビリテーションのスペシャリスト

一般社団法人　福島県言語聴覚士会

「自分らしい生活」送る支援

言語聴覚士による言語聴覚療法は、「話す」「聞く」といったコミュニケーションの障害や、「食べる」などの摂食嚥下えんげ）の障害を主な対象としている。①コミュニケーション②摂食嚥下③聞こえ④子どもの発達の遅れ―といった言語に関わる機能に問題を抱える人が、社会生活を送れるよう支援している。

「コミュニケーション」では生まれつきの障害や、失語症を含む病気や事故、加齢に伴う後天性の発声・発音の問題について、その症状や発症までの背景を把握し、機能改善に向けたプログラムを組み立てて指導する。「摂食嚥下」はうまく飲み込めない、むせるなどの障害に対し、咀しゃく嚥下して飲み込むのに必要な器官の機能を高めるための訓練を指導する。「聞こえ」は難聴など聴覚障害のある方に聴力検査や発声の訓練、補聴機器の調整などを行う。

「子どもの発達の遅れ」では、言語機能の発達に遅れや偏りがみられる子どもに「ことば等による コミュニケーションを成立させる」「語彙や文法、文字の習得を促す」などの指導を行い、言葉の獲得を後押しする。「サ行が言えない」など発達上の発音の悩みや、吃音（ども）の相談にも対応する。近年は自閉症スペクトラムや学習障害などの発達障害への対応も増加している。理学療法士や作業療法士、教員、保育士などの関係職種とも連携・協力しながら総合的に支援している。

言語聴覚士は大学病院や総合病院のリハビリテーション科、リハビリテーション専門病院などの医療機関のほか、介護老人保健施設やリハビリテーション施設、特別支援学校など保健・福祉から教育機関に至る幅広い領域で活躍している。公民館など地域の公共施設を訪問し、高齢者向けの難聴対策や誤嚥（えん）性肺炎を予防するための講話や体操の指導も行っている。

電気式人工喉頭を使用した発声練習を支援する言語聴覚士（中央）

相手の一番の理解者に

副会長
志和　智美

脳卒中など脳血管の疾患や外傷で言語中枢がダメージを受け、言葉を思うように言えない、理解できなくなるなどの「失語症」、記憶や注意などへの影響が生じる「高次脳機能障害」や舌などの麻痺や手術に伴い発音困難と食べることが困難となる「嚥下障害」を抱える方に訓練を行っています。

気を付けているのはその人の「一番の理解者」になることです。まずは声を掛けて相手の反応から話を聞いてどの程度分かってもらえているかを評価し、様々な表情やジェスチャーを交えて相手の状況や悩みを理解していると伝えます。医療保険が適用される期間は疾患や症状によって異なり、脳血管疾患では最長百八十日間ですが、その間に信頼関係を築き、ご家族にも障害を理解してもらいながら社会復帰に向けた一歩を手助けしていきます。

リハビリは明確な目標を立て、機能向上に向けての関わりや、コミュニケーション環境の調整などへのサポートをすることが重要です。訪問リハビリも携わっているので、病院を退院後は地域で生活できるよう支援を続けます。

音があり、言葉を話し、美味しい物を食べることで人生は豊かになります。喜びが共有できるこの仕事に誇りを持っています。

音やことば理解する能力育てる

副会長
山田　奈保子

「ことば」、「きこえ」、「食べる」といった分野で障害を抱える小児のリハビリテーションを専門に担当しています。

発達の問題や難聴など、患者さんが課題を抱えている原因はさまざまで、全てが同じという人は2人といません。まずはお子さんの抱える症状の原因を探り、「絵本を使って言葉を引き出す」「正しい発音の方法を教える」などのその子に適した訓練プログラムを考えます。

療育師まで音を理解できずにいたおさんとおって、音との出会いは人生を変えるできごとです。補聴機器を付けたことで表情がパッと明るくなる姿は何度立ち会っても感動します。出会えた音をいかに生活に使える音にしていくか。補聴機器を付けて音の存在を知ることからトレーニングが始まり、音やことばの持つ意味を理解できるよう家庭と連携してその能力を育てています。成人の方に対しても難聴を軽視しないよう啓もう活動もしています。

この仕事に就いた当初に担当した子どもさんは今年で二十八歳になりました。難聴の患者さんとは一生の付き合いになります。長期的な支援の過程で多くの成長や感動に触れられるから、続けられるのだと思います。

認知症予防に難聴ケアが大切!!

二〇二〇年、世界の五大医学雑誌の一つランセットに、認知症に関する十二のリスク要因を改善することで約40%発症を予防する効果があるとの研究成果が発表された。

リスク要因の中には難聴があり、認知機能との因果関係が明らかになっていないが、難聴の放置は認知症を発症する最大のリスクとも言われている。

研究では、人生の時期に修正する必要があるかに基づき、小児期、中年期、更年期に分けて、相対リスクと人口寄与割合（その危険因子を持つ人がいなくなったら認知症患者が何%減少するかを表す数字）とともに提示した。

早期発見、療育に新スクの受検を

難聴や発達障害をはじめ、「周囲とうまくコミュニケーションがとれない」「言語の発達が気になる」など幼少期の子どもに関する課題は早期の発見、対応が欠かせない。その一方、対応できる医療機関や専門家が少なく、とくに難聴は早い段階で療育を開始すれば、言語の遅れを軽減できる。

県は、難聴を発見する新生児聴覚スクリーニング検査（新スク）を二〇〇三（平成十五）年度に開始した。全国的にも早い時期に体制を整備したこともあり、本県の新スクの受検率は高い水準にある。いち早い難聴の発見と療育開始により、言語の発達を後押しする活動に力を入れていく。

療育のプログラムでは補聴器や人工内耳の調整を担当する言語聴覚士の役割が非常に重要だ。

県は、難聴を発見する言語聴覚士（ST）養成事業を開始した。失語症の人をサポートする支援者を養成する事業で、県から委託を受けた県言語聴覚士会が講演会を開催している。翌年の一月には東北地方で第一号となる支援者が誕生した。支援者は失語症患者の外出に同行し、通院時の付き添いなど自立に向けたサポートや、家族との円滑なコミュニケーションを後押しする。

福島県言語聴覚士会　阿久津由紀子会長に聞く

コミュニケーション支える

福島県言語聴覚士会は二〇〇一（平成十三）年に「言語聴覚士」の国家資格を持ち、県内で活動する仲間の職能団体として発足しました。二〇一五年に一般社団法人化し、九月現在の会員数は二百六十七人です。

言語聴覚士は病気や事故、生来の障害などで発声・言語や聴覚、認知といったコミュニケーションの基盤となる機能が不自由となった方々に対し、現状の評価や機能回復に向けた訓練、代替手段の提案など必要な支援を提供します。理学療法士、作業療法士と並ぶリハビリテーション専門職です。

言葉は人間らしさの最たるものです。数カ月から年単位の長期支援が必要な場合もありますが、言語機能はじっくり時間をかけて獲得、回復、適応していくものです。「本人や心家族、地域の皆様との信頼関係を大切にしながら「話す・聞く・食べる」の専門家として会員一同、努力していきます。

県内でも大勢の言語聴覚士が医療機関などで活躍していますが、医療や介護、福祉、教育など社会の幅広いニーズに応えるにはまだまだ人材が不足しています。言語聴覚士は「伝える、支える、心をつなぐ」役割によってコミュニケーションを考えるやりがいある仕事です。多くの人に言語聴覚療法に関心を寄せ、言語聴覚士を目指してもらいたいと思います。

言語聴覚士の仕事の魅力を語る
阿久津会長

失語症の支援者養成講座で誕生

福島県では推定三千人が脳卒中などの後遺症による失語症を抱えて生活している。失語症患者の多くは日常的なコミュニケーションに支障があるため、周囲の人々との会話を避け、社会生活から孤立してしまう傾向にある。

県は二〇一九年に失語症向けの意思疎通支援者養成事業を開始した。失語症の人をサポートする支援者を養成する事業で、県から委託を受けた県言語聴覚士会が講演会を開催している。翌年の一月には東北地方で第一号となる支援者が誕生した。支援者は失語症患者の外出に同行し、通院時の付き添いなど自立に向けたサポートや、家族との円滑なコミュニケーションを後押しする。

伝える、支える、心をつなぐ。

言語聴覚士って？

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、生活の中で大切な要素「話す、聞く、表現する、考える、食べる」ことに問題を持つ方とそのご家族が豊かな社会生活を送れるよう支援するリハビリテーションの専門職です。

私達は、地域の皆様のことば、きこえ、食べることに関するお困りごとに、専門的サービスを提供することによって、地域社会に貢献してまいります。

福島県地域医療復興事業
福島県言語聴覚士会

県民講演会（WEB形式）　参加無料

「吃音の基礎知識とその対応について」

講師：原　由紀　先生
（北里大学医療衛生学部　リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻）

日時　2021年12月5日(日)　10:00～12:00（受付9:30～）
定員　約150名

■申し込み：
QRコードかこちらのURLより申し込み下さい
https://forms.gle/r8QjJkhVBvMEhRBx8

締め切り：2021年11月28日（日）　17：00まで

※講演会当日のZOOMのURLや注意事項はお申し込み後にご連絡致します

お問い合わせ先
福島県言語聴覚士会学術部
担当者：斎藤佐和　黒澤大樹
E-Mail：　fukushimast.gakujutsu@gmail.com

一般社団法人
福島県言語聴覚士会
Fukushima Speech-language-hearing Therapists Association

【事務局】
〒960-1101 福島県福島市大森字柳下16-1
社会医療法人 秀公会 あづま脳神経外科病院
リハビリテーション部 言語聴覚療法科 内
☎(024)546-3911　FAX(024)546-9555

JAS
一般社団法人
日本言語聴覚士協会
Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists